

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 1 9/15(水)	夫婦同伴文化 —一人間らしい生き方を求めて—	木津川 計	産業社会学部 教授
内容 欧米の生活様式をほとんど取り入れた日本です。ですが、一つだけ見習うまいとしてこの国の波打ち際で阻止し続け、今日に至る、それが夫婦同伴文化なのです。なぜ根づかなかったのかを探ると、いくつも理由がある中で近代以降の日本人の情感—ときめきとたかぶり—に囚っていた事がわかるのです。その経緯をたどりながら、夫婦同伴文化と、併せ夫婦別文化の確立、その大切な事を主題に致します。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 2 9/22(水)	健康・医療・福祉とロボティクス —ロボット技術が健康、医療、福祉を変える—	牧川 方昭	理工学部 教授
内容 超高齢化社会を目前とした我が国では、高齢者が健康に寿命を全うできる技術、患者に優しい医療、障害者が社会で役に立てる技術の開発が求められています。ロボット技術がこのような要求に立つことは間違いありませんが、従来の工場におけるロボットと異なり、「人」のことをよく知らなければ人に優しいロボット技術を作り出す事は出来ません。研究の現場、産業の現場では今、どのようなロボット技術が開発され、また開発されようとしているのか、またどのようなことが問題になっているのかを分かりやすく解説します。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 3 9/29(水)	大学女子駅伝 日本一の軌跡 —大学スポーツの意義と課題—	十倉 みゆき	立命館大学スポーツ強化センター
内容 第21回全日本大学女子駅伝大会・第1回全日本大学女子選抜駅伝大会の大学女子駅伝初優勝までの道のりを中心に、大学アスリートの現状と課題をお話させていただきます。 (立命館大学女子陸上競技部コーチ)			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 4 10/06(水)	犯罪被害者をどう守るか	上田 寛	法科大学院 教授
内容 犯罪被害者がなぜ問題なのか/問題の現状、被害者への注目/被害者の有責性と「被害受容性」の問題、被害者補償制度の成立と現状、犯罪被害者の救済に向けたその他の制度、2000年の被害者保護法による措置、刑事裁判のあり方と犯罪被害者—以上のような項目につき、Power Pointを用いながら講演する予定。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 5 10/12(火)	日本経済の将来と構造改革	白川 一郎	政策科学部 教授
内容 日本経済は2004年に入ってようやく景気回復が本格化しはじめたと言われている。しかし、やや中長期の視点から日本経済を見た時、多くの難問が待ち構えている。すでに1997年から減り始めた労働力人口に象徴されるように日本経済の潜在的成長力の低下が大きな問題である。日本経済の構造改革が行なわれてはじめて持続的な形での景気回復が可能である。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 6 10/20(水)	交通事故に関するトラブルの対処法	菅原 茂	弁護士(S56. 経卒)
内容 交通事故が発生した場合に生ずる損害賠償について、賠償の対象となる損害にはどのようなものがあるか、賠償額はどのように決められるのか、トラブルが生じた場合にどのような手続を取れば解消し易いか等を説明する予定です。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 7 10/26(火)	統計から見た日本の貯蓄率	稲葉 和夫	経済学部 教授
内容 貯蓄は、家計レベルでは私たちの不測の事態に対する備え、老後のための準備にとって必要不可欠なものである。貯蓄を国民経済全体で見た場合、違った姿が浮かび上がる。従来日本の貯蓄率は、諸外国と比較して非常に高く、高い貯蓄率をめぐって内外からさまざまな評価がなされてきた。ところが、この貯蓄率が最近大きく低下している。この貯蓄率の低下は、何によってもたらされたのか、何を意味するのかを幾つかの公的統計を眺めながら検討してみたい。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 8 11/12(金)	インドの大衆宗教画と近現代史	中村 忠男	文学部 助教授
内容 この講義では美術館に奉られる大文字の「インド美術」ではなく、今日においても一般のヒンドゥー教徒の生活に密着した大衆的宗教画(バザールプリント)を扱いながら、宗教的表象がいかに「国民」という新たな対象を近代において創出したのか、さらに歴史的プロセスを現在も進行中の出来事として扱います。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 9 11/18(木)	新しい消費者法の展開	鹿野 菜穂子	法学部 教授
内容 消費者問題の多様化・深刻化に直面し、日本においても、近年、消費者の利益を保護し権利を確立するためのこの講演では、最近の立法の内容を概観した後、今後の改正に向けた動きについて論ずる。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 10 11/24(水)	少年審判事件雑感	幸田 安功	弁護士(S45 法卒)
内容 弁護士登録以来、刑事当番弁護士制度を介して少年審判事件を担当してきた経験を踏まえて気づいた事、疑問に思った事など交えながら少年審判事件の手続の流れや少年法の立法精神、その精神を手続にどのように生していくべきかを考える。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 11 12/01(水)	ゲノムの世界	菊池 正和	情報理工学部 教授
内容 2003年4月ヒトゲノムプロジェクトが終了した。それはワトソンとクリックがDNAの二重らせん構造を提唱してちょうど50年目の歴史的出来事であった。現在ヒト以外のゲノムも次々に明らかにされている。明らかになったゲノムの配列はわれわれを更なる新たな科学の世界へ誘ってくれる。ゲノムは我々に何を期待させ、またどのような問題をもたらすのであろうか？現在の科学の知識をもとにこれらの問題を論じてみたい。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 12 12/08(水)	英語教育とディベート —「サッカー・ディベート」の試み—	及川 正博	国際関係学部 教授
内容 欧米のディベートでは、主張側と反論側の対決がデータなどの知識で進められ、相手を理論だけでやりこめるケースが多い。論理に情理の要素を加えた日本生まれのサッカー・ディベートでは、サッカーの様に攻守の役割を決めてボール(議論)を蹴り合い、時には聴衆の感情に訴える手法で論戦する。立論の「石」、それに反対尋問する「風」、反駁の「火」と「水」では日本的(東洋的)な情が強調される。このサッカー・ディベートの理論と実践を紹介し、日本の英語教育への導入を検討する。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 13 12/15(水)	生命科学と倫理・社会	松原 洋子	先端総合学術研究科 教授
内容 バイオテクノロジーの発達は、人体という「内なる自然」を「生物資源」とみなして研究開発の対象にすることを可能にしました。従来の人権概念の前提となってきた人体観を覆すような生命科学の知識と技術の登場は、自然界における人間の位置や生命に対する人為的介入の方法の見直しと倫理規範の再構築を迫っています。この講義では、現在の先端医療がもたらした倫理的問題に対する社会の取り組みの状況と今後の課題について検討します。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 14 12/22(水)	裁判員って何？ —刑事裁判における 裁判員の果たす役割—	小橋 るり	弁護士(S57.法卒)
内容 TVや映画、小説などで市民が知っている刑事裁判というのは、手に汗握るストーリーで、とても面白く、又正義感を満足させてくれるものでもあります。しかし実際の刑事裁判の現場はどうでしょうか。今回の裁判員制度の導入で市民に期待されているものは何か、制度整備に必要な証拠開示や取調べの可視化(録画・録音)の話もあわせて、刑事裁判のしくみと醍醐味をご紹介できたらと考えています。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 15 01/12(水)	地震と文化財	土岐 憲三	理工学部 教授
内容 東南海・南海地震が今世紀半ばまでに起きる可能性はきわめて高いが、これまでの東南海・南海地震の来歴を振り返れば、南海道の地震の前後に内陸の地震が頻発することが明らかである。地域によってはこうした内陸地震による被害の方が甚大である可能性も高い。このような地震を起こす内陸の活断層は近畿地方に特に密度が高いが、この近畿地方には我が国の国宝の70%が集中しており、地震対策はほとんど行われていない。講演では、この問題の現状とその解決法に関して講述する。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 16 01/19(水)	アナログ-デジタル再考 —映画の前のおもちゃたちから学ぶ—	赤井 正二	産業社会学部 教授
内容 「アナログ」は古さの代名詞。「デジタル」は新しさの代名詞となっているが、基本的な考え方に注目すれば、両者は長い併存の歴史をもっているものであり、ともに認識の基本的な仕方だと言える。この講演では「デジタル的な仕組み」がコンピュータが出現するずっと以前から我々のメディア環境を作っていたことを映画前史から学びながら、「アナログとデジタル」の関係を考え直したい。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 17 01/26(水)	遺産相続の問題点	山下 忠雄	弁護士(S62 法卒)
内容 相続人及び被相続人両方の立場から、自己の利益になるような遺産相続及び分割方法を検討する。特に被相続人の立場から、特定の相続人に大部分を相続させたい場合の処理方法、問題点をさまざまな事例を紹介して説明する。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 18 02/02(水)	職務発明制度の現状と課題 —技術経営の視点から—	安藤 哲生	経営学部 教授
内容 永年会社の名前の陰に隠れていた企業の技術者が、ここ数年1億円あるいは200億円プレーヤーとして報道されるようになり注目を集めている。ではなぜこのような変化が起きたのか、また多くの技術者は同じように恩恵を受けているのか・・・この問題の背景にある特許法第35条(職務発明制度)の内容と最近の動向、本学が行った企業実態調査から見た現実の姿を紹介し、企業経営における技術者処遇のあり方を考える。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 19 2/09(水)	ベトナム コネクションズ 立命館大学理工学部と ベトナムの工科大学との交流—	John Craig Wells	理工学部 助教授
内容 立命館大学の国際的な姿勢が社会的に評価されており、その代表的な事例は立命館アジア太平洋大学の設置である。日本の大学にとっては今後、国際水準の研究活動を維持するためには、特に博士号の優秀な学生の人数を戦略的に増やすべきである。本講義では立命館大学理工学部とベトナムの工科大学との交流に関して講師が行っている活動を記述する。河川工学やマイクロマシン分野のベトナム人の大学院生が行っている研究を述べてから、その交流の活発化に向けて日本の企業に期待出来る役割についてブレインストーミングしたい。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 20 02/16(水)	デジタルコンテンツ産業論 —オタクな人々は日本を救うか?—	細井 浩一	政策科学部 教授
内容 テレビゲームやマンガ、アニメは我が国が高い国際競争力を有するコンテンツ産業であり、世界のインターネット検索サイトのランキングでは日本製アニメの主人公が検索キーワードのトップを争う常連になっている。本講座では、ゲームやアニメがクールな(カッコいい)文化商品として世界に評価され始めているのはなぜか、またコンテンツビジネスは産業として今後も発展する展望があるのか、そして構造不況にある日本経済の牽引車になりえるのか、等の疑問についてわかりやすく解説する。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 21 02/23(水)	消費者被害の実態と救済方法	二宮 誠行	弁護士(H3.法卒)
内容 悪徳商法などによる消費者被害は、実は意外と身近に潜んでおり、誰もがその被害者になってしまう危険があります。そこで、消費者被害の実態を具体的な例を挙げて説明しながら、みなさんが万一そのような被害にあわれた場合には、一体どのような対応をとればよいのかについて説明します。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 22 03/02(水)	自動車企業のグローバル展開と生産技術力 -日産自動車 車を事例として-	今田 治	経営学部 教授
内容 日産自動車を事例に、今日の自動車企業のグローバル展開の特色、ルノーとのアライアンス(提携)、日本の生産技術力に対する評価、世界同時開発・製造のための生産技術、NPW(日産生産方式)の具体的展開等を、トヨタ自動車との比較もまじえて述べる。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 23 3/10(木)	東北アジア共同体の意義と可能性 -各国・地域経済の現状から-	松野 周治	経済学部 教授
内容 いわゆるグローバリゼーション(地球化、世界化)とともに、EU拡大に象徴される国際的・地域共同体形成の動き(リージョナライゼーション:地域化)が進展している。恐らく、「地球化・世界化」は「地域化」(開かれた地域主義)を基礎にすることによって21世紀の人間生活と自然を豊かにしうると考えられる。我が国が位置する東北アジアについて、各国・地域経済の現状と課題を紹介しながら、共同体形成の意義と可能性について考察する。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 24 3/16(水)	市民と自然保護 -自然保護のために市民は 何が出来るか?-	藤原 猛爾	弁護士(S45 法卒)
内容 自然保護については、「自然」を「どのようにまもるのか」ということ自体にも様々な考え方があります。自然保護か、開発かという二者択一の議論はどこに問題があるのでしょうか。環境教育を徹底し、あるいは市民の意識を向上することによって自然は保護出来るのでしょうか。自然保護をめぐる裁判を紹介しながら問題を提起します。あらためて自然保護について考えてみましょう。			

講演日	講演タイトル	講師名	所属学部
No. 25 03/23(水)	人はなぜ騙(だま)されるのか -横行する詐欺行為-	安齋 育郎	国際関係学部 教授
内容 世の中の不景気を反映して、「オレオレ詐欺」などの経済詐欺事件が多発しています。アメリカではアパグネイルという名での詐欺師が、詐欺の手口を暴露する会社を設立し、『華麗なる騙しのテクニック』という本まで書きました。騙されない為にはどうすればいいのか。本講座では「人はなぜ騙されるのか」について実演つきで考えるとともに、騙されない為にはどうすればいいかということも具体的に考えてみたいと思います。			